



南条っ子

南条小学校だより

教育目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成

南条っ子は 進んで学ぶ子

思いやりのある子

力いっぱいやりぬく子

令和4年8月30日発

第22号



○ 第2学期スタート

40日間の長い夏休みでしたが、充実した毎日を送ることができたでしょうか？ 昨年よりも新型コロナウイルス感染症の拡大状況が悪い中で、感染対策に努めながら慎重に生活していたのではないかと思います。その反面、行動制限がなかったために、久しぶりに思い出作りどこかに出かけたというご家族もあったかもしれません。この期間に少しでもリフレッシュができていますと良いです。

8月30日(火)、今日から2学期が始まりました。今朝、元気に登校してくる子どもたちの様子を見て、とてもうれしい気持ちになりました。学校には、やはり、元気な子どもたちの姿が不可欠だということをしみじみ感じました。新学期が始まると、子どもたちの新型コロナウイルス感染症の感染が増えることが心配されていますが、しっかりと感染対策をしていきたいと思っています。

今学期も本校の教育活動に対しまして、引き続きご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

○ 意識調査の結果（5・6年生）

毎年3回、県教育委員会から5・6年生を対象に意識調査が行われ、4つの質問に回答しています。7月に行った調査結果をお知らせします。

【4つの質問内容】

- A: 学校は楽しいですか。 B: みんなで何かをするのは楽しいですか。
- C: 授業に主体的に取り組んでいますか。 D: 授業がよくわかりますか。

【結果】		あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
5年生 (44名)	A	25名(56.8%)	15名(34.1%)	2名(4.5%)	2名(4.5%)
	B	28名(63.6%)	13名(29.5%)	2名(4.5%)	1名(2.3%)
	C	12名(27.3%)	24名(54.5%)	5名(11.4%)	3名(6.8%)
	D	21名(47.7%)	21名(47.7%)	0名(0.0%)	2名(4.5%)
6年生 (45名)	A	23名(51.1%)	21名(46.7%)	0名(0.0%)	1名(2.3%)
	B	35名(77.8%)	9名(20.0%)	1名(2.3%)	0名(0.0%)
	C	15名(33.3%)	28名(62.2%)	1名(2.3%)	1名(2.3%)
	D	30名(66.7%)	15名(33.3%)	0名(0.0%)	0名(0.0%)

コロナ禍での不自由な学校生活を送っているため、結果がひどく悪くなることを心配していましたが、ほとんどの質問(5年生の質問C以外)に対して、90%以上の子どもたちが、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えてくれました。

今後の調査では、「あてはまる」と答えてくれる子どもの数をさらに増やしたいです。

○ 図鑑に親しんで学力アップ

教育評論家 親野 智可等 先生の話

親野智可等さんが考える図鑑の魅力

※他にも参考になる話が多いです。

最近の図鑑は子どもが飽きずに見られる工夫をいろいろ研究されていて、繰り返し見られますよね。たとえば、恐竜博士とか動物博士、こういうものになる可能性が高まるわけですね。やはり図鑑を見てないと、何とか博士っていうものにはなかなかないんですよ。子どもって、何とか博士っていうふうになって「恐竜なら誰にも負けない」となって自信がつく。自信がつくと、自己肯定感が高まる。そうすると、生活全体に張りが出てくるわけですね。他のことでも、楽しく頑張れそうな気がしてくる。苦手なことでも「やってみようかな」という気持ちになってくる。とにかく一つの分野を極めていったり、自分の世界を持つてる、その土台をたっぷり与えてくれるのが図鑑ですよ。

さらに言いますと、図鑑には平仮名もあるしカタカナもあるし、ルビを振ってある漢字もあるし、アルファベットも出てくるわけですよ。文字情報を読めるようになると、いろいろな言葉を覚えるわけですよ。言葉を覚えるってことがまた「概念を覚える」ってことでありまして……。子どもが言葉を覚える場というのは、一つは、家族との会話。一つは、テレビとかYouTubeとかそういうもの。そしてもう一つが、図鑑も含めた本ですね。この本から得られる言葉というのが子どもの頭を鍛えるうえで非常に重要なんですね。なぜかというと、本には会話やテレビでは出てこない言葉ってのが出てくるんですよ。例えばある図鑑を見たら、「亜種」という言葉がある。他にも「縄張り」とか「繁殖期」とか「保護色」とか「夜行性」とか、こういう言葉って会話やテレビではほとんど出てこない。

でもこういう言葉を知っていることが、勉強に非常に有効なわけですね。図鑑を読むことで、会話やテレビでは得られない言葉、つまり「概念を得る」ということになり、子どもの知的レベルを上げていく効果がありますよね。

【オススメ図鑑活用法】

自分で図鑑からクイズをつくってみるのもお勧めです。

<問題> 正しいものには○を、間違えているものには×をつけましょう。

- 1 地球に恐竜が登場したのと同時に人間も登場した
- 2 ライオンなど毛に覆われた動物なら北極海の沿岸でも生きられる
- 3 キツネザルはマダガスカル島だけに住んでいる
- 4 陸上で最も大きな動物はアフリカゾウである
- 5 セミはおもに針葉樹林で見られる

【答えは × × ○ ○ ×】

以前、教室に大きなハチが入り込んでいて、騒ぎになっていたところに、たまたま私が通りかかり、ハチを指先に止まらせ、外に逃がしたことがありました。子どもたちは、「校長がハチを触った」とびっくりしていましたが、もしスズメバチだったら、そんなことは絶対にしていません。クマバチ(クマンバチ)のオスだと分かったから(オスには、顔に黄色い三角の部分がある)、そんな大胆なことをしました。大きくて、大きな音を出して飛ぶので、恐ろしい感じがしますが、クマバチ(クマンバチ)のオスは毒針がなく、性格は温厚で、人に害を与えることはありません(刺さない)ことを知っていたからです。(メスには毒針があり、刺すことがあります。)

小学生の頃、昆虫図鑑を見て覚えた知識が、大人になっても役に立っています。